

中国の人との触れ合い

大浦 攻

（元）珠海三美電機有限公司 総経理

私がきた当事（1990年）の中国華南地区では会社では人々の勤労意欲はなく，過ちをおかしても自分の非を認めず他人の責にする責任転換，言い訳が目立ち，町に買い物に行くためタクシーにのるとお釣りはくれない（小銭はもっていない）。店には物はなく，品質も悪いが，サービスはもっと悪い。まず声をかけても知らぬふりをする従業員が多い。『これより大きいサイズはありますか？』『これとおなじもので紅色はありますか？』とたずねると，調べもしないで『没有＝ない』という言葉が返ってくる。売れても売れなくても，自分の給料に影響がないので，お客の対応をしない方が楽と考えているのだろう。又つり銭は汚いお札を投げてよこすので腹が立つ。レストランでは注文しようにも従業員同士大声でおしゃべりに夢中で『等一下＝まってください』と平気という。ひどい人になるとまったく無視である。注文をうけても，ひどいと1時間もしないと料理がでてこない。挨拶（おはよう・さよなら）・感謝（ありがとう）や謝罪（ごめんなさい）の言葉はどこでへ行っても聞けない。日々不快な思いの毎日でした。

でもそれからの中国は1992年の●小平の華南地区訪問を契機に『市場経済体制』へ移行し『サービス市場』も開放され，サービス産業は大きく変わり，新しいホテル・百貨店・スーパー・個人商店が次々と開店，日本の企業も進出，中国企業の製品とともに，外国企業の製品，輸入製品が並びお客でいっぱい，店が出来れば商売繁盛間違いなしでした。ところが3～5年も経つとお店が出来すぎ外資系だけで十数店も出店，スーパー，コンビニなども増え特割やセールなど価格競争が激化。2000年代にはいると，早くも淘汰の時代になり日本の企業も撤退しました。でも中国人は一般的に人に使われるより

『老板＝社長』になることを望み，物を作るより，物の売買で儲けることを望むのか，勝ち残り組は負け組を吸収し，依然として厳しい競争が続いており，それぞれの企業が企業イメージを打ち出し，イメージに合った『品質のよいものを安く購入できるように知恵をだし』製品を保証し，『品質に合った』値段で，『サービス精神をもって』売っています。そのことはお店にはいと『いらっしやいませ』お店を出る時には『ありがとうございました』と明るい声が聞え，店内では従業員同士のお喋りも少なくなり，お喋りをしているとお客が問いかけるとすぐ対応してくれることからわかります。

また『WTO加盟』後，沿岸地区の街では携帯電話がなり，公園では家族同士がカメラで仲良く写真を撮りあい，パソコンショップには若者の群がりが出ており，沿岸地区の生活水準が年々高くなっていることが，一目でわかります。

1990年頃の電気製品といえば，一流店では日本製が大半を占め中国製の電気製品は隅っこに置いてあるだけで，ほとんど売れていませんでした。中国製の製品は安いのになぜ買わないのと中国の人に聞くと，中国製は故障が多く，寿命は日本製の10年に比べ1～2年，しかもその時はまだアフターサービスという概念がありませんでした。でも私は駐在期間は長くないから1～2年でもてばよいと思い中国製の洗濯機と冷蔵庫を購入しました。そして使用してみると洗濯機は1ヵ月もしないのに故障で動かない。それで販売店に文句を言うと『文句は製造元に言ってくれ』と言う。製造元は上海だ。上海までいけるわけではない。知っている中国の人に修理屋はあるか？と聞くと，あきらめて新しいのを買いなさいと言われ買うことにした。すると故障した洗濯機は持って帰

連載

る．一般的にそんなサービスはしないはずと思って聞くと、持ち帰った洗濯機は修理して売ったり、仲間で使用するそうです．中国製品の買い物は『当りはずれ』が多く、洗濯機と一緒に買った冷蔵庫は運がよく『大当たり』で８年間故障なしで使用しています．でも２１世紀にはいった現在の中国の電気製品はどうでしょう．

対外開放政策により優秀な外国製品、外国企業が入ってきたお陰で、『故障が多く、当りはずれ』の多い低品質の品物では売れない、物売るには『サービス』が必要だと目ざめた中国の企業は、技術の向上と意識の改革に力をいれ、生産段階から流通段階にいたるまでの『改善スピード』をあげ、ここ数十年で『世界の工場』になり『世界の市場』から認められた『世界に通用する製品』に進化しました．それは町の百貨店・スーパー・個人商店で中国製がほとんどを占め日本製の電気製品はどこに置いてあるのか探すのに一苦労する状況から判断できます．また招待されて行った家庭のリビングからは、SONY・パナソニック・サンヨーなどの日本家電の姿はなくなり、海尔・美的・科龍などの中国有名ブランド製品が並んでいることから理解できます．

その要因は『ハングリー精神』が旺盛な中国人は『向上心』も人一倍強く、中国家電が『高い品質にたいするこだわり』と『技術革新』により、日本製家電に負けない品質を、日本製よりもはるかに安く供給することが可能になったことで、世界最大の家電製品生産国となり、また販売ルートも全国展開になっており、アフターサービス面でもほぼ完全なカスタマーサービス体制を形成しています．それに比べ日本製製品は以前は厳格な品質管理と行き届いたサービスで優位に立っていましたが、２１世紀に入り中国国内各地で品質問題を起こしており、その上十分にクレーム処理をしてくれないと不評で、アフターサービス面では完全に劣位になっています．また中国に進出した欧米・台湾・韓国など企業レベルも上がっており、韓国の文化（映画・歌・ファッション）が北京・上海等に上陸し、ブームを巻き起こしたところでサムソン電子をはじめ、韓国製品が中国国内に販売．中国の若者はサムソン電子の携帯をはじめたくさんの韓国製品を持っており、日本製品の売れ行きに歯止めをかけている大きな原因の一つにもなっています．また日本で売られている商品の多くがメイド・イン・チャイナで、先日お土産に、日本で買い中国に持ち帰った品物が中国

製で恥をかいた苦い経験もあります．また中国は衛星の打ち上げ回収技術も取得しました．もう中国は今日できないことでも、明日・明後日には必ずできる国に成長しています．

次に今まさに『世界の工場』・『世界の市場』である中国で活躍する為の準備・心構えをお話します．

海外で活躍するには現地語が話せることが大いに役にたつのです．一般的に中国に赴任した日系企業の幹部の多くの人が中国語ができないため、中国人の通訳や日本語のわかる人を採用し、中国人との仕事のやりとりに通訳を介して仕事をしています．

例えば、工場現場で通訳（仮に工場での通訳は初めてのＡさんします）を介し、日本の『作業指導書』を使い作業指導をします．動作だけでもある程度までは相手に伝えることは可能です．しかし、細かい技術的な内容を相手に伝えるには、言葉の意味をＡさんが理解してくれなければ、相手に伝えることはできません．このことはあなたがＡさんを通じて班長なり指導員に教えたことを、班長（指導員）が作業員に教えた後、作業の確認をしてみるとよくわかります．製品が何に使われ、この作業の目的・ポイント点などきくと伝わっていないことがたくさんあるはずです．Ａさんは確かに日常会話には優秀ですが、技術的な内容については仕事の知識・経験がないと通訳できないことを、通訳を介して仕事をしている日本人が分からずに通訳をたのみ、また通訳さんはメンツがある為、専門語の意味が分からなくても、分からないとは言えず、自分の分かる言葉のみ解釈し自分の感じた通り通訳しているからです．そのために通訳を介して仕事をする人は下記手順により、事前に準備をしておくときっと上手くいくと思います．

- ① 海外に赴任がきまったらまず日中・中日辞典を購入する．
- ② 通訳を介して重要な仕事をする時は事前に内容を紙に書いて渡し、中国語に翻訳してもらい、日文・中文を準備するといいいです．現場での作業指導では通訳の人に作業を覚えてもらい、作業指導をしてもらうことが出来れば最高ですが現実的には難しいです（ホワイトカラーは一般作業をすることを嫌います．また作業が出来なくて作業員からパカにされることを恐れます）
- ③ 言葉の意味がわからない時は『わからない』と言っ

てもらい、お互いに『辞典』『専門誌』を活用し、意味を理解しあう。自分が分からない時は『わからない』と言い、専門用語がわからないのは当たり前であり、『わからない』と言うことは恥ではなく、わからないことを『わからない』といえないことが恥であることをよく教え納得してもらおう。

④ 必ず作業（仕事）の結果を自分の目で確認をする。

又日頃、日本人どうしても、自分の考えていることを相手に伝えること、相手の気持が自分に伝わってくることは非常に難しいのに、通訳を介して、自分の考えていることを相手に理解してもらう事は大変なことなのです。特に商売相手、交渉相手の通訳に依頼した時は、通訳に悪意がなくても、相手方に偏った通訳になってしまいます。また怒ったり、誉めたりする感情を通訳を介して相手に伝えるとは非常に難しいです。21 世紀、海外で仕事をする人は、

- ① 言葉の意味だけを教えるのではなくその背景にある日本の文化・習慣・考え方・人情などを教え、中国の文化・習慣・考え方・人情などを教えてもらい相互の理解を深められるよう、手助けできるようにすること。
- ② 今まで学んできた専門知識外に中国での輸出入・国際規格（品質・環境）・労務管理などの知識を勉強し身に付けること。

を希望します。

ところで、もしあなたが海外で仕事をするとして現地の言葉が操れたらどうでしょう。

休みの日は、早朝散歩、市場での買い物、公園、カラオケにといろんな所に出かけ、いろんな人と話しをし、自分の目で町の人々の生活・考え方・風俗・習慣を少しづつ見るにつけ、それが仕事に大いに役立つことになります。中国人との情報交換、褒める時、叱る時も相手と納得の行くまで話し合いが出来ることで、通訳を介して話し合いをした数倍も、お互いを理解しあうことができるでしょう。

また中国人通訳は日本語を中国語に翻訳するのは上手ですが、中国語を日本語に翻訳するのは大変難しいらしいです。それは中国語会話の上手な日本人が翻訳した中国語文章を、中国人に見てもらくと、小・中学校レベルだと言われます。中国人が翻訳した文章は日本人が見直

す必要があり、中国語のわかるあなたなら適切なアドバイスが出来、中国人通訳から喜ばれるでしょう。お互いに母国語とする人が見直すことにより翻訳された文章が生きてきます。

また日本の企業オフィスではお喋り好きな中国人が大声で話をしていますが、台湾・香港の企業オフィスではお喋りすきの中国人が、真面目に仕事に取り組んでいます。これはオフィスを管理する幹部が言葉が操れるか、操れられないかの差からきているのです。言葉が操れたら中国人は言い訳が出来ない為、無駄話は確実になくなります。でも無駄話をしていても注意しなければ話し声はなくなりませんが。

その反面、言葉が話せることにより厄介なことも多いです。中国人は日本人が情にもろいことをよく知っています。特に人事面での契約満了時点で不採用にした従業員からは、私は真面目に頑張って仕事をしているのに、なぜ再契約してくれないのですかと涙をボロボロ流し、直接訴えてきたり、直接の上司の不満や、上司に不平等な扱いをされたなどと訴えがきたりして、振り回されることも多くなりますから気をつけてください。

工場の現場でも文化・常識等の違いから、色々な問題に度々でくあわせます。

生産工場の現場で初めて仕事をする 17~18 位の女の子をみているとおもしろい姿に気がきます。左手を使わずに出来る仕事はまるで左手を骨折したように作業台の上におき、右手だけで作業をしています。これは日本では汁を飲むときにお碗を左手に持ち汁を飲みますが、中国では左手で碗を持ち上げることはご法度、右手でスプーンを使い飲むことからきているのではないかと思います。

またこんな失敗談もあります。日本では当たり前のことが中国では当たり前ではないことからおきる失敗です。機械には保全の為に油をさしますが日本では『作業の開始前・終了後に機械に油をさすように』と指示をすれば、油は指示通りさされています。ところが中国では班長や作業者に『作業の開始前・終了後に機械に油をさすように』指示をしても、『作業者が油のさし方がわからない為』に油さしが出来ていないのです。中国では子供に教えるように、まず『なぜ油をさすのか』『機械の何処にどのようにどの位さすのか』『油の種類は何々でどこにあるか』を作業指導書に基づき教えてから、自分で

連載

やってみせ、班長にやらせ、教えた通りに出来ているか確認し誉めてやることです。そして今度は班長に教えさせ作業者の作業を自分で確認することです。そうすれば作業者は指示された作業が完璧に出来るようになります。同時に作業指導書の間違いも発見できるようになります。仕事を教える時は『日本では誰でも出来る』と言う固定観念は捨て『作業者が出来る』『作業者が間違いをおこさない』ように教えることが出来るか、教える人に責任があるのです。

夜の宴席でも文化、食習慣の違いなどから色々な問題に度々でくあわせませす。

中国でのビジネスでは『宴会』はとても重要です。きっとあなたが中国に行けば、何度が招待されるでしょう。その好意を無にしないため、招待にちゃんと応えなければなりません。またこちらからお返し『宴会』の場を準備しなければならない時もあります。どの国とのビジネスにおいても、食事を一緒にすることは大切なプロセスですが、特に中国では重要でありこの機会を利用して親交をあたためることが大切なのです。でも日本と中国の文化・風俗・食習慣の違いなどから、日本では何んでもないことが、笑い話では済まされない深刻な問題になることに度々でくわします。また仕事（特に商談）で中国に赴いた人はお酒で過ちを犯すことは許されません。宴席で失敗しない為には宴席での仕方を日本流ではなく、『郷に入れば、郷に従え』で中国人通訳・幹部の人達に前もって教えてもらうべきです。

『宴会』を成功させる為気をつけなければならないことは

- ① 最初に宴会は時間通り始まるので遅れないこと。よく中国時間は1時間遅れと聞きますが、最近では時間通り始まりますので要注意。
- ② 中国の人はとても面子を重要視しますから、席順には特別な注意が必要で事前に先方に確認するなどの配慮を欠かさない事です。
- ③ 『宴席』に着いたら、お茶を飲みながらの雑談から始まります。日本のように『とりあえずビールから』は我慢です。
- ④ 中国南部ではビール、ワイン、紹興酒などいろんなお酒がでてきますが華北や東北では紹興酒は出てきません。華北や東北では紹興酒は料理の味付けに使うお酒で、白酒（アルコール度数 36~60 度の芋

台・五糧液）が中心で、小さな杯で一気に飲み干す『のど』で味わうお酒なのです。

- ⑤ 中国の人によく注意される日本人の酒の飲み方は宴席のテーブルで、『チビチビと自分のペースで盃やグラスを傾け飲む方法』で『手酌』はご法度です。中国の人で目的なく一人でチビチビと飲んでいる人はいません。盃やグラスをテーブルに置いたまま料理を食べたり、お茶を飲んでいます。
- ⑥ そしてしばらくすると、宴会のホスト会社から『商売繁盛』『健康を祈願して』『お互いの成功の為に』などといって必ず誰かと『乾杯』と言って目と目を見交わせながら一気に飲み干すのです。そして誇らしげに『杯を逆さま』にします。そして相手の人も同じように『乾杯』と唱和して杯を飲み干すのです。これは『乾杯』がお酒を勧める手段であり、『無理に客人に酒を飲ませることが、歓迎の気持ちだ』という相手の純な気持ちなのだそうです。
- ⑦ お酒に自身のある人は宴席を盛り上げるために一度『杯を持って』自分の右隣の人から順に一人ずつ『お互いの成功を祈願して』と言って乾杯してみてください。そして最後まで崩れないでシャンとしていることが出来たら尊敬され、次にも誘いが来るでしょう。中国人は泥酔いしようものなら、『信頼できない人』と思われ二度と宴会に呼ばれることはないのです。それは社会的な『死』を意味することでもあるのです。日本人の場合はまったく逆で、いくら飲んでも羽目を外さない人は『面白くない』『注意人物だ』と思われ酔って醜態をさらした人のほうが『信頼できる』と思われているような感じをうけます。また日本人の宴会では、酔っ払い、羽目を外し、憂さ晴らしをするため飲んでる人が多いようですが、中国では全く違うので注意してください。
- ⑧ 『中国の宴会』は料理を食べ、酒を飲み、歌を歌ったりして心から楽しむもので『宴会でのまじめな話はタブー』です。特に政治の話、会社内部の批判はもっての他です。また話は必ず大声で話す。隣の人とのヒソヒソ話は企み話しと疑われるし、無礼だと言われるからだそうです。中国のレストランでの騒々しさは、自分に『二心がない』かを周囲の人に PR しているためらしいです。騒々しさを

嫌う日本人だけの食事会なら文句を言う前に、事前に『個室』を確保しておくべきです。

- ⑨ また宴会が終わると『その日の出来事』はその晩のうちに広まります。もちろんその宴会に出なかった人も、翌日になればみんな『昨夜の出来事』を知っていると言っても過言ではありません。宴会でのアクシデント、そこにいた小姐（ホステス）との仲、宴会後の二次会でのご乱行、日本人が『どうしてそんなことが』と思うことまで知れわたっています。『中国人は信用できない』という日本人が『中国人が一番信用していない』飲み屋の小姐（ホステス）を信用していると話す中国人は『そんな日本人こそ絶対に尊敬できないし、信用出来ない』と怒りをあらわにしていました。

次は『無理に客人に酒を飲ませることが、歓迎の気持ちだ』という相手の純な気持ちから逃れる方法を教えます。

- ① お酒の飲めない人は、お酒の強い飲める『宴の盛り上げ役』人をつれてゆく（中国人の偉い人がやる方法）。
- ② あらかじめ飲めないことを相手に話しておき、最初の乾杯の時に『私は酒は飲めません。お茶で代用させていただきます』とはっきり宣言する。
- ③ 勧められても『乾杯＝杯を飲み干す』に対し『随意（スイ・イー）＝自分に合った量だけ飲みます』と宣言して盃に口をつけ少しだけにします。その時、中国の習慣では盃が空にならなくても減っていれば、杯一杯に注ぎ足されますから注意しなければなりません。

中国では『酒に飲まれること』はご法度で決して人様に醜態を見せないのが男の強さであり、礼儀とされています。海外では特に常識と節度ある行動がもとめられます。中国では飲んでいううち酔いが回り、床にひっくり返ったり、嘔吐したり、悪酔いして大声をだして周りの人に迷惑をかけたり、二日酔いで会社に遅れたり、休んだりする中国人にはまずお目にかかることはありません。日本ではよく酔っ払いや翌日二日酔いで会社に遅れたりする人がいますが、中国では『酒に飲まれること』はご法度ですから十分気注意が必要です。

宴席で失敗しない為にもうひとつ紹介します。

宴も進み、酒がもう飲めなくなると日本では『自分のグラスを逆さに置く人もいますが』は中国ではタブーです。これは相手との絶交を意味するそうです。また「宴」も終わり近くなると、魚料理が出てきます。出てきた魚料理を皆でつつき合い、上側を食べ終えた後日本では魚をひっくり返して下側を食べますが中国では「魚をひっくり返すこと」はタブーです。これは漁師が船の転覆を恐れ、目の前の魚もひっくり返さないからだといわれています。

中国で成功する為の一つ目は中国の人から信頼されることです。

中国の人から信頼されるにはまず自分達で作った規定を自分自ら守ることです。それから規定を守らなければならない目的をよく説明し、守らない人からは警告書（罰金）を出してもらい、そして2回目又は3回目で解雇になることが規定できめられていることもよく説明しなければなりません。人間は違反したことに對して『反省』するのではなく、捕まったことに對し『自分の運の悪さ』を嘆くものです。そして警告書（罰金）を出すことで『違反行為』は忘れてしまい、『警告書（罰金）』に対する不快感だけが残るものです。ですから警告書（罰金）を出すことは国家・お客さんに対する違反行為であり、皆さんは国家・お客との約束を守る義務があり、違反した人は責任を負わなければならないことをよく説明し理解させることが重要なのです。

信頼されるための二つ目は、ひとつひとつの問題を中国人と一緒に苦しみながら考え、みんなで力を合わせてやれば必ず解決する。そして仕事がらくになり、楽しくなることを身をもって教え、分かってもらうことです。

そして三つ目は、中国の人への偏見をもっていないことです。中国の人は働かないと言う偏見は間違いです。動機付けをしっかりとし、業績が透明で公正な評価がされ、公平（働きに応じた報酬）に報酬が貰えたら中国人は日本人以上に一生懸命働きます。中国の人が働かないのは日本人に中国人を信頼する気持ちがない場合、日本人に能力・人格がない場合、業績の評価方法が悪い場合です。中国の出稼ぎ労働者はハングリーで、自分の評価をする人、自分の能力（専門能力・対人能力・総合判断力のある人）を高めてくれる人の話には耳を傾けよく勉強しますが、反面その能力を組織の発展のために活かす人は少ないから大変です。

連載

海外で成功する為の二つ目は、『一年一年』が契約で勝負であり『任期』はないと思ひ仕事をする。

海外で成功する為の二つ目は、海外に赴任する時は『任期』とはいひ結果をだして務めることの出来る最長期間であり『一年一年』が契約で成果の出ない時は帰任しなければならないことを肝に銘じるべきです。その為には自分が日本で一流といわれる人材でないと中国へ行ってもいひ仕事は出来ないと言うことです。自分の能力（専門能力・対人能力・総合判断力）を高め、中国の法律、文化、経済、言葉、なんでもいひから、中国のことを勉強してから赴任すべきです。日本人のよいところはと中国人に聞けば『和を大切に。時間に正確。礼儀正しい。真面目。清潔。責任感が強い』と答えが返ってきます。ところが中国で生活をしているうち、『日本人としての気持ちを忘れ』中国人の悪いところを注意せず、真似て『時間にルーズ』になる日本人は間違っています。そういう人は中国での仕事は成功しません。でも挨拶の仕方は『日本ではお辞儀』ですが『中国では握手』ですから『握手』がいひのかかもしれません。

海外で成功する為の三つ目は、中国ではたくさんの女性が第一線で活躍していることを知ることです。

次に『中国の工場』では女性社員（90%~95%を占め、金型作り、成形、プレス作業も女性が担当）が多く、現地の管理人員・技術人員も第一線で活躍する若い女性が増え、それにともない日本女性の駐在員管理職・中間管理職がだんだん増え活躍しているのが目立ち始めています。女性スポーツ界でも女性監督が増え、良い成績をのこしています。女性の多い職場では優秀な女性の駐在員管理職・現地管理職は男性管理職よりも、社員から恐れられる一方で親しみをうけやすいようです。そして、女性のほうが一般的に男性より公正で、規則・規定を守り、不正に厳しく、平等公平であり、信頼され人望があると言われています。

中国市場は弱肉強食、強いもののみが生き残れる競争社会です。日本企業が中国に設立した会社に日本人を派遣し、中国人スタッフを採用して、会社の経営をするわけですが、考え方の違ひから、たちまち行き詰まってしまう。それはお互いが育った社会環境の違ひによります。日本での生活が長い外国人の中には、日本的な考え方の人がたくさん居るように、日本人も中国に赴任して2、3年も経つと中国人の個人の行動は『個人主義と

家族主義』文化を基礎としており、組織のために積極的に責任を負うという意識が非常に低いことに気がつくでしょう。

- 1) 日本企業では発生した問題が、個人責任に帰することでも組織が責任を取ることを前提として考えますが、中国では発生した問題に対して徹底的に個人責任を追及します。個人追求をする為にはその人から『私が悪かった』という言質を取らなければ処罰出来ないそうです。『自白』を取らないと処罰出来ない。『自白』すれば処罰される為中国人は自分の非を認めず、言い訳をし、他人のせいになります。仕様書・記録表・報告書などに検印・承認欄に印を押すようになっていますが、まず確認も質問もしないで印を押します。あとで問題が発生し、日本人上司に怒られると、担当者の個人責任であり、まるで検印・承認者には責任が供うことがないかのように『お前が間違えたから、上司に怒られた』と部下に圧力をかけます。
- 2) 中国では個人に対する権限と責任が極めて強く、商談をする時は、『責任と権限』をもらい会社を代表する発言し、その場で最終判断をしなければなりません。『会社を持ち帰って上司と相談して回答します』では次から相手にされません。また日系企業で中国人社員が会社を代表すると言う感覚は全く無く、最終判断するのはトップか日本人に限られており、日本人との商談を望みます。
- 3) 日本では物を売った回収責任は『物を買ってお金を払わない相手が悪い』で、売った損失責任は会社が負いますが、中国では物を売ったお金の回収責任は『お金を払わない相手に売った人が悪い』で給料カットされることもあるそうです。
- 4) 『改革・開放』を旗印に変化を追い求める中国では試行錯誤の中から方向を模索しており社会や制度、法律が変化するのは当たり前という感覚が浸透しているが日本では20世紀までは社会や制度、法律が変化することが少なく、日本人は制度・法律が変化することに対する対応力が弱くなっており、大きな変化にとまどう事が多いようです。
- 5) 日本人は『中国は人治国家だから』といって法律のもとで問題を解決せずに『人脈で解決するのは』正しい判断ではありません。近年では不正防止の

為、不正に対する処分は厳しくなり、人事異動も頻繁に行われるようになっており、前任者と約束したといってもダメです。あくまでも法律に則って正しいかどうか判断してもらい、その上で保証をしてもらうことが大切です。問題解決の交渉には、日本語に翻訳された法律の本をもって相手と交渉すれば、相手も法律上の問題として話しを進めてくれます。

- 6) カネ儲けのために骨身を惜しまず働き、両親、キョウダイに仕送りをし、残業・アルバイトでお金を貯め、貯まったら学校で勉強するのが現代の中国の若い人で、親に生活の面倒を見てもらい『趣味・遊び・レジャー』の為に金がなくなると働くのが

日本の若い人。また中国の若者が米国・欧州・日本に留学している数が年々増えている事を、中国人の若者の就職先希望の第一は欧米系が圧倒的に多く、つぎは国内系の優良会社。そして日系企業の順になっています。国内系の企業が日系企業を少し上回っていたのは、条件が同じなら、優秀な中国企業で働き、国際的な企業にする、よその国の人に使われたくない、ということだと思います。またかれらが就業を重視条件としては① 高い収入② 新しい技術や知識の習得。③ 自分の能力が発揮できる。④ 将来ビジョンがある。⑤ 責任・権限・評価が明確。

などがあげられます。